



全国国公立幼稚園・こども園 PTA連絡協議会

会報

第52号
 発行者
 全国国公立幼稚園・こども園
 PTA連絡協議会
 会長 猪木直樹
 事務局
 岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
 玉島テレビ放送(株)内
 印刷
 株式会社玉島活版所



「南山に鼓を打てば北山に舞う」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
 会長 猪木直樹

平成二十八年は、例年になく暖かいそして穏やかな年明けを迎えました。今年も子どもの幸せを心から願ひ、平穏無事な一年でありますようにと思いを描いていることと思います。

会員の皆様におかれましては、申年の本年、不幸なことは去る(猿)年、良いご縁(猿)ありますようにとスタートを切られたことでしょうか。我々PTAにとっても、子どもたちにとっても、地域においても幸多い一年にしていきましょう。

さて、戦後七十年を迎え、我が国は成長社会から成熟社会へと変化し、世界の中においても、時代の大きな転換期を迎えています。日本の政治経済においてまだまだ混沌の進む中、幼児教育環境の充実がどのような形で、どのような方向に進んでいくのか不安と

共に期待を寄せている今、我々子を持つ親は何をどうしていったらいいのかをしっかりと考え、行動に起こしていく時であると思います。

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の歴史を顧みれば、汗をかいていたいた先人たちがいたからこそ、幼児教育の基礎が確立され、今があると信じています。そして、今は今で諸問題に向き合っていく時です。単位PTAが最前線で活動し、単位PTAでは対処することが難しいことを都市連合PTAがフォローし、力を合わせて解決していく。そして、全国組織が大きな波をつくり、国に提言をしていく。このようなシステムをより強固なものにしていかなければなりません。このようにすべての礎となるものは、半世紀に渡り積み上げてきた歴史と経験です。

今年度も全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会として、各々との連携の強靱化を念頭におき、各地の想いをしっかりと受け止めて、文部科学省とのパイプをしっかりと構築していきたいと思

ます。一人一人の力は小さいけれど全国の仲間が集まって力を合わせて、子どもたちを支える原動力になり、前へ進んでいきたいと思っています。

本年八月に九州熊本の地において、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会熊本大会が開催されます。火の国熊本から、熱い思いを発信していただき、その活動のすばらしさを全国に繋げてい

けたらと思います。まさに、「南山に鼓を打てば北山に舞う」です。誰かがどこかの場所で鼓を打つ、つまり、行動を起こせば、それを遠くから応援してくれる人がいる。どんなに心強いことでしょうか。そのために、それぞれの個が益々すてきな鼓を叩くことです。必ず繋がっていく、大きな力になるはずですから。すべては未来を担う子どもたちのために!!

必ず繋がっていく、大きな力になるはずですから。すべては未来を担う子どもたちのために!!

平成27年度 優良PTA文部科学大臣表彰

平成27年8月8日 第53回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会
 「愛知大会」において、表彰式が行われた。

- 群馬県 東吾妻町立原町幼稚園PTA
- 東京都 渋谷区山谷かきのみ園やまびご会
- 富山県 富山市立呉羽幼稚園ありのみ会
- 静岡県 浜松市立北庄内幼稚園PTA
- 静岡県 東伊豆町立熱川幼稚園父母と教師の会
- 大阪府 大阪市立住吉幼稚園PTA
- 岡山県 和気町立佐伯にこにこ園PTA
- 徳島県 つるぎ町立貞光幼稚園PTA
- 香川県 さぬき市立長尾幼稚園PTA
- 愛媛県 松前町立松前幼稚園PTA



特別寄稿

子どもに学んで



文部科学省初等中等教育局視学官
幼児教育課教科調査官
津金 美智子

今年度の秋、幼稚園を視察した時のことである。

5歳児の一人の男児が黙々と製作をしていた。途中で両面テープを使おうとしている。まだ、両面テープの扱い方に慣れていないその男児が苦心していると、見かねて友達がやってきて手伝ってくれた。手伝いながら声をかける幼児の言葉に、私はしばらく耳を傾けていた。

「もうちょっと、切って」

「もうちょっと、四角になるように」

「はってから、むくの」

「たてじゃなくて、よこ、よこ」

男児の手先の動きに気長に付き合っ、声をかけている。それも、「はってからむくの」と両面テープの特性や、接着のしくみを捉えて声をかけている。結構、幼児なりに、テープと接着面との適切な関係を捉えて、「もうちょっと」四角になるように「たてじゃなくて」「よこ、よこ」などと形や大きさを、

長さなどを、比較したり、例示をしたりして、説明の仕方を変えている。この説明の仕方は、なかなか理を得ていて、幼児なりに物事を論理的に捉えている様子もうかがえる。

そして、何より、私がこの幼児の言葉で「大人でもかなわない」と感心したのが、次の姿である。矢継ぎ早に声をかけていると、だんだんと製作していた男児の声が出なくなってきた時のことである。

「これって、意外にむずかしいよね」「Aちゃん（と男児の名前を呼び掛ける）いける、いける」と教えている。相手の様子や気持ちを察して、相手のやる気が途中で萎えないように認めや励ましの言葉をかけている。男児の苦心している様子に『自分だつてむずかしいかと思っているよ』と共感するかのように「意外に」と言ったり、

「いける、いける」とその気になるような言葉に表したりして、励

まし方を工夫しているのである。こうした5歳児の姿に出会うと、「幼い子供」とは言えないようなすばらしい力を持っていることを教えらる。子供から学ぶことは多い。

こうした姿は、5歳になって初めて現れた姿ではなく、きつと、これまでの幼稚園での生活の中で友達とかかわりを深めてきたことで培われている姿であろう。

同じ幼稚園の3歳児の姿も参観した。大好きな友達が見つかり、一緒に跳びはねているだけでも、うれしい様子が見られた。本当にほほえましい姿に、私は引き込まれた。

しかし、次の瞬間、不意に違う子供に気を向けてしまった相手に腹を立て、何とか自分だけを見てほしいという思いをぶつけ出した。先生も間に入って、気持ちを受け止めるが、なかなか収まらな

い。すると、突然、「びよん、びよん」と言っ、相手の目の前で跳びはねて見せたのである。その姿を見て相手も笑い返して跳びはね出した。トラブルがあったことがうそのように、また、二人は笑いながら、先ほどと同様に跳びはねる動作を繰り返したのである。

3歳児なりに、どのように自分の方に関心を向けさせるか、精一

杯に考えたのだろう。単に興味を引き付けるだけではなく、トラブルになる直前、「一緒に跳びはねていた」楽しさを思い出したのだろうか、その楽しさを共有できるようにしたら自分の方に戻ってき

てくれるかもしれないと考えたのかも知れない。トラブルを経たからこそ、たどり着いた幼児なりの解決の仕方であるとも考えられる。こうした姿を見ると、幼児のたくましさ、困難を自分の力で切り開いていく力を感じる。幼稚園において集団で生活する意味がここにある。集団といっても、単に一齐に同じ活動を行う型としての集団ではなく、一人一人が自分らしさを発揮し、互いにかかわり合っ

て学ぶ関係となる集団である。こうしたことも子供の姿から教えられる。現在、国においては、学習指導要領や幼稚園教育要領の改訂に向けて様々な審議がなされている。これから先、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等による社会の変化を子供たちが乗り越えていくためにはどのような力が必要であるか、それを子供の視点に立って明らかにするとともに、そのための指導方法や評価の在り方も一体的に捉えた、新しい時代にふさわしい学

習指導要領・幼稚園教育要領の在り方について検討していこうとしている。

その中で、子供に必要な力として、「知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」と共に「学びに向かう力・人間性」が挙げられている。このことは、上述の力が働くエンジンであり、具体的には情意や態度等に関わるものすべてであり、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどが含まれている。

今まで聞きなれない「学びに向かう力」という言葉であるため、何か、新しく幼児に身に付けさせる「小学校教育の前倒し」と思われる方もいるかもしれないが、これらは、幼稚園教育の中で大事にしている「心情・意欲・態度」とつながる力であることが分かる。これまで、こうした心情や意欲、態度については、「目に見えない力」「後伸びする力」と言われて

もいたが、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」が働く方向性を決定付けるものと示されて

いる。さらに、これらの力をいかに総合的に育んでいくかが大事なことである。知識の質や量ではなく、それらを「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見や解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。

最初に示した5歳児や3歳児の姿における人とかかわり、もの

第五十三回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

総会ならびに研究協議会

— 愛知大会 —

大会報告

猛暑の中、三英傑輩出の地名古屋市において、「愛知大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。「愛／未来を創る子どもたちへ Nagoyaka に、親子をつなぐ愛と知恵」というまさに保護者自身が子どもの未来を創るのだという保護者の強い信念と深い愛情を感じるテーマのもと、学び合、確かめ合うことができた二日間でした。提案発表では、三園か

などに對して没頭したかわりなどが、様々なことに気付いたり、自分なりに気持ちを持ち越えたりすることにつながる大事なことがあることが分かる。

人格形成の基礎を培う幼児期の教育、義務教育及びその後の教育の基礎を培う教育であることの意味をしっかりと受け止め、子供の中にある学びの力を読み取る力とさらに伸ばす環境について、教師も保護者も子供の姿から学んでいきたいものである。

社会が協力していくことでよりよいものになっていくことを再認識し、さらにつながりを大切にしていきたいと感じた大会でした。

大会要項

一 大会主題

愛／未来を創る子どもたちへ

Nagoyaka に

親子をつなぐ愛と知恵

二 期日・会場

平成二十七年

八月七日（金）・八月八日（土）

名古屋国際会議場

三 日程

八月七日（金）

・会計監査

・役員会

・理事会

・情報交流会

八月八日（土）

・開会式

・表彰式

・総会

・記念講演

・提案発表

・文科省講話

・閉会式



第五十三回 愛知大会

表彰状・感謝状受賞者（敬称略）

全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会会長表彰

前全幼P 監事

島根県

飯庭 久美子



全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会会長感謝状

秋田県国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会

平成二十七年活動方針

ならびに事業計画

一 活動方針
全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会として新たなスタートを切るべく「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すことを念頭に置き、幼児教育の振興発展にさまざまな形で寄与すべく活動を続けていきます。その礎は、昭和三十八年結成以来、半世紀にわたり積み上げてきた歴史と実績であり、その熱き思いまでも継承していくことが、我々の使命であることを確信しています。

全国国公立幼稚園・こども園 PTA 連絡協議会、全国国公立幼稚園・こども園においてなされている幼児期の学校教育としての教育が最上のものであることを広く

理解しています。時代が激変している今だからこそ、すべての子どもたちが笑顔で成長していくために、また、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられる環境構築のために、全国国公立幼稚園・こども園長会との絆を密にし、さらに全国すべての PTA 組織と連絡提携し、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とします。

記

(1) 義務教育化を前提とした幼児教育の充実

(2) 幼児の安全確保に向けた事業推進

(3) 家庭・地域の教育力の向上

(4) 会員の資質向上と組織強化

(5) 情報共有の強化

(6) 国公立幼稚園・こども園教職員

の待遇改善

二 事業計画

四月～五月

・ 加入園へ会費納入と愛知大会案内状発送

・ 未加入園へ加入依頼書と愛知大会案内状発送

・ 平成二十六年度会務報告と決算報告書作成

・ 平成二十七年年度理事名・加入園名報告依頼

・ 平成二十七年年度要望書作成

・ 全幼P 全国大会「愛知大会」の後援名義使用許可願発送

・ 愛知大会の助言者依頼

六月～七月

- 第六十六回全国国公立幼稚園・こども園長会総会「神奈川大会」にて本会発展の協力依頼
- 表敬訪問（文部科学省）（東京）
- 平成二十八年度全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「熊本大会」における提案発表について依頼
- 第六十二回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会「徳島大会」会長出席
八月～十二月
- 会計監査、役員会、第一回理事会（愛知）
- 第五十三回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「愛知大会」総会ならびに研究大会
- 愛知大会決定事項の処理
- 会報五十二号原稿依頼
- 熊本大会開催について事前打合せ
- 平成二十八年度活動方針・事業計画書案と予算案作成
- 第二回理事会（東京）
- 理事会での検討事項の処理
一月～三月
- 会報五十二号発行
- 未加入県へ加入呼びかけ
- 平成二十七年度会務報告と決算の中間報告書作成
- 第三回理事会（東京）
- 理事会での検討事項の処理

大会宣言

昭和38年に鳥根県で設立して以来、半世紀以上にわたって園と親と子のために活動を続けてきた全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、今年度4月に名称を改めました。認定こども園も含め、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会として生まれ変わり、新たな気持ちで各地域と連絡をとり合い情報を共有しながら、家庭・地域・園がつながり協力して、幼児教育の振興と充実に向けて活動を続けています。

平成27年度から子ども・子育て支援新制度がスタートし、幼児教育は大きな変革期を迎えています。新制度では、全ての子どもたちが質の高い教育・保育を受けられるようにすることをめざしています。

秋田大会においては、子どもが幸せを体験、実感できる場や機会を周りの大人が整えていく大切さが示されました。変革期にいる我々には、質の高い幼児教育の推進をはかるとともに、新制度が親子の幸せを守り、未来の社会を築く礎となるよう見守っていく使命があります。子どもは未来に希望をもち、輝きを求めて生きています。私たち大人は、あふれるような愛を子どもたちに注ぎ、輝く笑顔を未来へつないでいくことが必要です。

そこで、愛知大会のテーマを「愛//未来を創る子どもたちへNagoyaka（なごやか）に親子をつなぐ愛と知恵」とし、私たち大人が技術、創造力、叡知を結集し、磨き、深め、明るい未来を創る子どもたちの愛と知恵はぐくんでいくことを約束し、次のことを宣言します。



- 一、 幼児教育の重要性を広く社会に訴え、日本の未来を担う子どもを育てます。
- 一、 家庭と地域と園が手を携えて、幼児教育の更なる質の向上をめざします。
- 一、 PTA組織の活性化とその運営の充実を図ります。
- 一、 PTA活動を通して、生涯学び続けようという気持ちをもちます。
- 一、 幼児の安全確保と園の安全管理を強化します。

平成27年8月8日

第53回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会愛知大会

研究協議

提案発表表Ⅰ

「親と子が共に育つ」

PTA活動をめざして

千葉県東庄町立笹川幼稚園
平成二十七年年度PTA副会長
菅谷 重貴

一 はじめに

東庄町は千葉県の北東部に位置し、東は銚子市、北は利根川を隔てて茨城県神栖市と隣接する自然豊かな地域です。人口約一五、〇〇〇人、昭和三十年に一町三村が合併により誕生しました。主な特産品には、SPF豚肉、いちご、醤油等があります。醤油は昭和六十年NHK朝の連続ドラマ「滯つくし」の舞台となった醤油蔵が実在し今でも作られています。

二 本園の概要

昭和三十三年町内最初の幼稚園として開園、今年創立五十八年目を迎えます。町の中心的な場所に位置しています。地域の事情により一年保育のため、園児の大半は町内にある二つの私立保育園から、数名は直接家庭や他園から入園してきます。本年度は二十六名の園児が在園しています。園の教育目標は「じょうぶで元気な子ども」

「自分で考えて行動する子ども」「思いやりのあるやさしい子ども」です。

三 PTAの組織と活動内容

〇組織

【役員】会長一名、副会長一名、幹事一名、会計一名、会計監査一名、庶務一名（園職員）

〇主な活動内容

- ・園行事の運営補助
- ・園庭や園舎内の環境整備
- ・PTA研修会への参加

四 取り組みの様子

【安全面に関する活動】

〇親子交通安全教室（近所の道路や模擬道路を使った正しい歩き方、道路の渡り方の実地指導、危険な場所の再確認、「チャイルドビジョン」体験、防犯学習）

〇親子防災学習会（消防車見学、消火器を使った初期消火訓練、防災ゲーム、起震車を使った模擬体験）

〇「自然とかかわりをもつ活動」

〇「ちよここと遊び（栽培活動の手伝い時に絵本の読み聞かせやゲーム等「ちよここと遊び」を実施）

〇「ザリガニ釣り（子供たちがのびのびと活動に取り組めるよう安全面でも全面的に協力）」

【そのほかの取組】

- 〇年間三回の労力奉仕
- 〇親子での製作活動への参加
- 〇給食試食会
- 【アンケートの実施と考察】

〇PTA活動に対する意識向上

と実態把握のためのアンケートを実施

〇結果を分析し、今後の課題を掌握

五 成果と課題

PTA活動に参加することで、園での子供たちの様子を知ることができ、親子共通の話題がもてるようになりました。こうしたことの積み重ねが、家庭と園との距離を縮め「みんなで子供たちを育てていく環境」につながっていくのではないかと考えます。一年保育であるため、保護者同士のかかわりがもちづらく、子育ての悩み等気軽に話し合える場を確保していく必要があると思います。

提案発表表Ⅱ

「読み聞かせで深める

家族のきずな」

静岡県伊豆の国市立富士美幼稚園
平成二十六年年度PTA会長
内野 文

豆半島北部に位置しています。

二〇〇五年四月に伊豆長岡町、葦山町、大仁町の三町合併により誕生しました。世界文化遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」のひとつである葦山反射炉は富士美幼稚園から車で十分程のところであり、園児も園外保育で訪れる親しみのある場所です。

二 本園の概要

富士美幼稚園は二〇〇五年に誕生し、幼稚園の名前は公募の結果、富士山が美しく見える幼稚園ということになりました。三年保育で各学年二クラス。平成二十六年年度全園児数一二五名、世帯数一一三戸で支援員を含め十四名の職員で運営されています。園の教育目標は「明るく元気でたくましい子」を軸に「自己表現する子」「思いやりのある子」「丈夫な体の子」の知・徳・体を重視しています。

三 PTA活動について

〇運営部・・・納涼会、もちつき会

〇厚生部・・・園内環境整備、あいさつ運動

〇文化部・・・PTA総会のしおり作り、ふじみ新聞発行、卒園文集、家庭教育学級

四 読み聞かせ活動について

①父親を主とした参観会での、父親による絵本の読み聞かせの実施

②「えほんカード」を全園児に配布

※感想欄には本の感想ではなく読み聞かせをした時の子ども様子や保護者が感じとったことを記入

③保護者によるおはなし会の実施

※対象は全保護者、月に二回、帰りの支度までの間の十分程度

④おはなし会だよりの発行

⑤図書コーナーの絵本の修復

⑥図書館司書による読み聞かせ講座

⑦年長児による絵本作り

※親子参加会での年長児とお母さんの共同作業で世界に一冊の絵本作り

五 成果と課題

読み聞かせに関する七つの活動を通し、一番の成果は保護者の意識が前向きに変わったことです。

課題としては「えほんカード」を活用できなかったこと、祖父母参観会に読み聞かせを取り入れる方法の検討です。改善策として「えほんカード」については提出されたカードのチェック体制や子供たちが選ぶ絵本の集計をとり活用するなどの体制を整えていくこ

と。祖父母参観会に読み聞かせを取り入れる方法については、祖父母といっても幅広い年齢の方がいらっしゃるため読み手を決める方法などについて慎重に検討を重ねる必要があると思います。二十七年度の取組としては、おはなし会の継続と絵本コーナーの利用者の増加を目指し、伊豆の国市必読書十冊と新刊本のPR方法の工夫を考えています。

提案発表Ⅲ

「園と家庭と地域が

協働し、子どもたちに豊かな体験を」

三重県志摩市立磯部幼稚園
平成二十八年年度PTA母親部長
南 佳奈

二 本園の概要

昭和三十九年開設、今年度で五十一年目となります。園児数は四歳児・五歳児二クラスあわせて二十六人です。来年度は幼保一体化施設となります。園の教育目標を「自分の気持ちを出し、遊びこめる子」とし、「気持ちを素直に出す子・意欲的に遊ぶ子・友だちの気持ちに気づき一緒に遊びを楽しむ子」を目指す子どもの姿としていきます。磯部中学校区全体での幼・小・中のカリキュラムに沿って基本的な生活習慣の習得だけではなく、生き生きと生活しようとする意欲や自他を大切にする態度、仲間と協力して活動できる社会性など生きる力の基礎となる力の育成に努めています。

三 PTAの組織

一人一役以上を原則に、保護者全員が研修部、広報部、ベルマーケ部、交通安全クラブのいずれかに所属。各部の代表は役員会にも参加しています。

四 体験活動について

(1)ざりがに釣り

地域の自然に触れる体験の一つで、研修部は引率や活動の手伝いをしていきます。池の所有者さんのご協力のもと、PTA役員は子どもたちが活動しやすいようにと、

池の周辺の草を刈るなどの整備もしています。

(2)田植え活動

磯部の御田植祭「おみた」が行われる田の隣に、子どもたちの体験田があります。地域の方に、稲のことや植え方など田の様々なことを教えてもらい、種まき、育苗体験に続いて田植え体験をし、「おみた」の継承にも繋がっています。秋には地域の方と研修部の協力で稲刈りとはさかけ体験をします。冬にはPTA役員と老人会の協力で、収穫した餅米で餅つきをします。

(3)その他の活動

PTA主催での夏祭り会、子どもたちと合同開催のお楽しみ会、毎月の誕生会の手伝いや参加協力、福祉施設での高齢者交流、地域の高峠山登山の引率、芋作りや環境美化活動

五 活動の成果と課題

【成果】

- ・家庭内の姿だけでなく、園生活の子どもの様子がわかる。
- ・自分子どもだけでなく、周りの子どもたちともかわりもてる。
- ・親同士の繋がりができる。
- ・PTA活動を通じて、園の活動や教育方針をより理解できる。
- ・子どもと共に色々な体験をすることで、子どもの姿から学ぶこ

とや、子育ての喜びを再確認することができる。

【課題】

- ・園児数の減少により、PTA活動は保護者への負担が年々大きくなっている。
- ・預かり保育利用者が増え、保護者同士の顔を合わせる機会が減っている。
- ・二十八年度から幼保一体化施設となるので、園の行事や体験活動、PTAの組織や運営等についての検討が必要である。



指導助言

文部科学省生涯学習政策局社会教育課
地域・学校支援推進室 室長補佐

下田 力氏

の取組を紹介されましたが、今度は子どもたちに何をしたいか思い切って聞いてみるのもいいのかなと思います。野球がしたいといえば、野球が得意な人を、料理が作りたいといえば、料理が得意な人を、そうやって探して楽しく進めていくようなやり方もあるのかなと思います。

静岡県伊豆の国市立富士美幼稚園の発表でいいなと思った点は一言で言えば『アクション』行動ですね。徹底して読み聞かせを利用し、活用していることです。読み聞かせをする前は「嫌だな」と思っていた人が、やってみると「意外とできるじゃん」というふうにかわる。その流れが意識改革として良いのではないかと思います。今後のプラスアルファです。今後のプラスアルファです。徹底してアクションを起こすと課題が見えてくるので、次に、その課題をどう解決するか。その目標設定さえ上手くいけば、何でも上手くまわっていくのではないかと思います。もし、小学校でもPTAの取組として読み聞かせをしているのであれば、情報を共有しておくというのではいかと思います。

三重県志摩市立磯部幼稚園の発表でいいなと思った点は『分担』ということです。地域で協力し、子どもたちに豊かな体験を行

うためには、まさに分担しなければできません。発表の中で「豊かな体験が必要である」と言われていますので、そういう考えで続けていただけると良いと思います。今後のプラスアルファですが、活動の日程調整や人員配置などのコーディネートをされる方、企画を考えられる方、これは全国的な傾向なのですが、誰かに偏るのではないかと思います。だから、常に二人以上で行動する。元氣な会長さんがいなくなった途端に、活動がなくなってしまうのは寂しい。私の後釜はこの人よという方と一緒に行動されると、また優れた取組になっていくのかなと思います。最後に、このような会について思うことですが、発表された内容は地域によっては、さほど新しいことではなく当たり前のことかもしれません。しかし、このような場に皆様が集まってそれを確認することは非常に重要な事だと思えます。いろいろな考え方が入ります。情報も、昔に比べたら引き出しやすくなりました。そんな時に、音で、文字で、できれば遠慮なく面と向かって確認し合うことは非常に大事なことだと思います。今回の発表の内容を見て「うちもやってる」「同じだね」ということでも構わないですし、自分にとって、ちょっとした変化

指導助言 — II

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長

岩城 眞佐子氏

がどこかであれば、ここで情報収集したことを活かしていただければと思います。「コミュニケーションをとる事」と言うのがこうした大会の重要なテーマの一つだと思います。当たり前のことかもしれませんが、これからの非常に重要なPTA活動をしっかりと続けていっていただければと思います。

千葉県東庄町立笹川幼稚園は一年保育五歳児が二十六名という大変小規模な園だそうですが、保護者と園が協力して教育目標の達成に向けて取り組んでいるという発表でした。まず、一番の基本となる幼稚園の安心安全な園生活というところに視点を当てて親子での交通安全教室とか防災学習会といった取組をされました。交通安全教室は、統廃合により歩く経験が少なくなってしまうという子どもたちの課題を捉えての企画だそうです。防災学習会はいつ起きるか分からない災害に備え、どのように子どもを守るか、避難の仕方など具体的な想定をしながら心得をもつことができたことは大変貴重な体験だったと思います。また、これらの取組は交通指導員さん、消防署といった地域の関係諸機関とも連携が図れたことも意味があったと思います。次に自然とかわる活動に保護者が参加するという取組が紹介されました。年一回は全員が参加するようにされたことで全員の保護者が子どもが体験して味わっている喜びや嬉しさに共感できる機会を作ることができました。作業の手伝いのみならず、絵本の読み聞かせやゲーム等にかかわってもらおう工夫されたことによって、より充実した活動になったと思います。

静岡県伊豆の国市立富士美幼稚園は「読み聞かせで深める家族のきずな」という活動テーマで様々な取組をされました。まず、参観日を利用してお父さん方に読み聞かせを体験してもらったところ、子どもたちも大変喜び、お父さん方も具体的に自分ができることとして真剣に取り組めたというお話でした。また、お母さん方を中心に年間に一人一回は参加するお話会の実施を保護者全員が無理なく取り組めるよう工夫されています。家庭教育学級の際に図書館司書による読み聞かせ講座を実施したり、年長組では親子での絵本作りに挑戦されたり、絵本への造詣を深める活動へと発展されています。この絵本が世界で一冊だけの本であり製作の過程が親子にとっ

て素敵な思い出となり、きつと宝物になったことでしょう。これらの取組からPTA活動を通して役割の皆様の強いリーダーシップを感じます。保護者が読み聞かせの意義に気づき、実践していくことで、ねらい通り、家族の絆を深めてくれるのです。

三重県志摩市立磯部幼稚園は園児数二十六名といった小規模な幼稚園だそうです。園の周りには山、田畑、川、海といった羨ましいほどの自然豊かな環境ですね。その環境を活かされてザリガニ釣り、田植え、稲刈りなど子どもたちが豊かな体験ができるようPTAが支えてくださっています。保護者が子どもたちと一緒に活動する中で、楽しみを共有したり、会話が弾んだりすることが大きな意味があると思います。小規模園は教職員数が少ないので、こういったPTAの支えがあるからこそ教育活動の充実にもつながっていくと思います。園と家庭と地域が協働し、子どもたちに豊かな体験をというテーマでPTA活動を進めてもられたそうですが、子どもたちの楽しそうな笑顔、目を輝かせて活動する姿を見て、わが子の成長を感じ、子育ての喜びを味わう機会となったということですね。そして様々な活動を通して地域の方達が温かく支えてくださっているということも再確認されたということです。

ご提案くださった三園の実践から学ばせていただくことがたくさんありました。会場の皆様、どうぞこれらの学びをそれぞれの園、地域に持ち帰っていただき各園の実践に活かしていただきたいと思

演 講 記 念
「子どもの発達と生活リズム」

講師 和洋女子大学教授 鈴木 みゆき氏

今日は国公立幼稚園・こども園の保護者の皆様方なので国公立幼稚園・こども園にお子さんを入れてご自分で拍手をしてください。なぜか、これから説明します。脳呼吸、体温、心拍、睡眠、覚醒、こ





ういうのをコントロールしていま
す。2階の脳は、喜怒哀楽の情動
を司っています。それから海馬。
海の馬って書く記憶の貯蔵庫がそ
こにあります。それから、味とか
匂いとかを嗅ぎ分ける役がありま
す。だから、2階は別名、感じる
脳と呼ばれています。最後はこの
全体を覆っている大脳皮質です
が、特におでこの部分、人間だけ
が発達したと言われている前頭前
野です。別名、考える脳と言いま
す。論理的に物事を判断したり、
人とコミュニケーションをとった
り、ちょっとしたこと覚えたり、
創造力を働かせたり、気持ちでい
うと情感です。実は、脳の発達つ
て下から上に積み上げていくん
です。今日、ここにおいでの皆様の
お子様たちは毎日幼稚園で遊んで
いると思うんです。もしかすると
お父様とお母様方「遊んでいるだ
けじゃないのかしら、幼稚園で」
と思っているのかもしれない。
大きな間違い！なぜかっていうと
ですね、3階を育てるのは遊びな
んです。幼児期に子供たちが自発
的で主体的な遊びをすることに

よって3階の考える脳が育つんで
す。子供たちは砂場で流線型の砂
山を作ります。じつと見ていると、
砂山を作った直後からあつちから
もこつちからも手が出て、トンネ
ルを掘り始め、指先とか触れ合っ
たら大喜びです。川を流そうとい
うことになる、みんな、とたん
にバケツに水を入れます。どれく
らい入れたら持ち上げられるか、
どうやって運んだら子供たちだけ
で運べるのか、もの凄い勢いで脳
全体を使って考えています。こう
いう遊びを経て子供たちは「これ
は何だろう。どうしてなんだろう」
と言うことに気がつき、小学校以
降の教育を支えている学びの力に
なっていくんです。幼児期は、遊
びを通して自ら動くっていうこと
ろが、凄く大事なんです。1階
の脳幹で生活リズムが整い、生活
リズムが安定していると2階の気
持ちが安定するんです。皆様、寝
不足が続いたらイライラしますよ
ね。幼い子は、なお更なんです。
それで、生活リズムがしっかりと
している子のほうが気持ちが穏やか
になるんです。穏やかになった上
で友達と関わるというような力が
出てきます。そういうことを考え
ると遊びを通してというところが
国公幼の魅力の一つだと思ってい
ます。よかったですね。後伸びし
ますから。次は、睡眠です。睡眠
には2種類あって深い睡眠はノン
レム睡眠と言われています。この

睡眠は大脳自体を休息させていま
すので、身体の成長、成長ホルモ
ンが出てきます。怪我の修復もこ
の時に Rowe れています。免疫機能
の高まりや活性酸素を身体の中へ
運びます。レム睡眠は夢を見る睡
眠として知られていますが夢を見
るだけではありません。日中、学
んだこと、したことの情報を整理
して大事なものを記憶として定着
させていくっていう睡眠です。最
後は朝ごはん。朝ごはんは体温の
リズムで説明します。体温は明け
方、安静にしている時が一番低い
です。起き上がりにガッツと上
がってきます。脳の活動を動かす
ためです。体温を上げるためにエ
ネルギーが必要です。エネルギー
は朝ごはんなんです。規則正しい生活
リズムや挨拶や、テレビの時間、
ゲームの時間を決めようとか、そ
ういうこととかは実はすごく大切
です。親子ルールを作ってください
い。「おはよう」「行ってきます」
「朝ごはんたべましょ」「日中、友
達と元気に遊びましょ」というよ
うなことを親子で一緒に決めてい
けるといいなと思います。
それでは最後、お母様方に説明
させていただきますね。人間の脳
はとっても大きく進化してしまっ
たので、お母さんが一人では育て
られないんです。チンパンジーと
人間は遺伝子的には95%以上一緒
なんです。ぜんぜん違います。
チンパンジーのメスって死ぬ直前

まで子どもを産むんです。実は、
人間だけなんです。閉経後、30年
も生きるの。なぜ、おばあちゃ
んが貴重なのか？人間の脳が大き
くなりすぎたからです。だから、
私たちは育児の知恵とサポートが
必要なんです。育児の知恵とサ
ポートを進化した社会で果たすの
は学校なんです。学校の最初の入
り口は、幼稚園だったり、こども
園だったり。だから、本当にそこ
は大切だということ。一緒に
是非、力を合わせて今日の日よう
に繋がっていったらいいなってふ
うに思います。

お願いがあります。皆様方、早
寝、早起き、朝ごはんを支える科
学的根拠はもうお分かりいただい
たと思います。夜8時過ぎにコン
ビニとかファミレスとか居酒屋と
かレンタルビデオショップとか
で、こんな小っちゃな子を連れてた
親子連れを見かけたなら、傍に寄っ
て行って一言だけ言ってくださ
い。「あり得ない」ピンポンダッ
シユで逃げればいいです。夜、子
どもを見かけない社会づくりをし
たいと思っています。今日はどう
もありがとうございました。

平成二十七年 表敬訪問報告

平成二十七年七月九日全幼P猪
木会長、岩城全国国公立幼稚園・
こども園園長会会長、同事務局
長、全幼P副会長三名が文部科学
省へ表敬訪問を行いました。そし
て、国公立幼稚園・こども園の実
情をお話しさせていただいたり、
諸問題についてお願いをしたりし
ました。

一 国策として、幼稚園教育振
興・充実を図っていただき

(1) 市区町村に対する公立幼
稚園設置義務化のための
法整備

(2) 三年保育の実施拡大

(3) 財政難を理由にした幼稚

園の統廃合抑制・民営化の阻止

(4) 幼稚園における子育て支援及び預かり保育のための財政措置

二 幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

公立幼稚園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

(1) 専任園長、副園長・教頭

(2) 養護教諭、事務職員の配置

(3) 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための正規教員数の確保

(4) 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置

(5) 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善

(6) 幼稚園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項

目実現のための制度を確立してください。

(1) 幼稚園教員に対する教育職俸給表の適用

(2) ライフステージに応じた研修経費の確保

(3) 正規雇用の促進

平成二十七年 理事会報告

第一回 期日 八月七日(金)

場所 名古屋国際会議場

三英傑ゆかりの歴史がある愛知の地において、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

猪木会長の挨拶の後、伝保愛知大会運営委員長から大会の概要説明、萬里小路顧問の挨拶の後、平成二十六年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算報告、平成二十七年の要望、文部科学大臣表彰、全幼P会長表彰・会長感謝状贈呈について報告をした。平成二十八年年度熊本大会永瀬運営委員長より開催地の取り組みの説明があった。また平成二十九年青少年総合センターにおいて開催予定

がであった。役員選考については、各ブロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

がであった。

役員選考については、各ブロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回

期日 十一月十二日(木)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

猪木会長、萬里小路顧問の挨拶の後、愛知大会伝保運営委員長からのお礼の挨拶があり、大会が成功裏に終わったことを確認した。

続いて、平成二十八年度の活動方針・事業計画案・熊本大会について、要望内容等を協議した。また、今後の大会開催県、研究協議提案県の確認をした。

その後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課 今村課長補佐の話を拝聴した。

第三回は平成二十八年二月二十五日(木)国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催予定

がであった。



おめでとう

『幼稚園・保育所が力を合わせて』

和気郡和気町立佐伯こども園(佐伯幼稚園) 園長 山崎 八重美

午後後の保育を受ける、という生活の流れとなります。

この度、優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。これまでPTA活動を支えていただきました保護者の皆様や教職員、そして地域の皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝いたしております。

佐伯幼稚園では、幼児の減少・保護者の就労等により、幼稚園と近隣の佐伯保育所とで子どもが分散してしまい、年齢別の教育が受けにくくなりました。そこで、佐伯幼稚園と佐伯保育所の三・四・五歳児を共に幼稚園で幼稚園教育を行ってほしいということで、平成二十二年、幼・保一体化施設として「佐伯にこにこ園」が生まれました。保育所の三・四・五歳児は、登園から給食を食べて降園までを幼稚園で一緒に過ごし、幼稚園が降園後は、保育所に移動し

「子供たちが一緒に生活しているのだから、PTAも一つにしては」と、「佐伯にこにこ園PTA」がスタートしました。佐伯保育所の〇・一・二歳児の保護者も加わり、PTA会員(教職員を含む)全員が、執行部(会長一名・副会長二名・書記一名・会計一名・各専門部長五名・副部長五名)と五つの専門部(総務部・文化部・体育部・研修部・保育部)のいずれかに属し、全員参加のPTA活動を行っています。

次に、PTA活動の中から少し紹介します。

「ふたごフェスティバル七月四日」幼稚園児十六名・保育所児五十七名と家族が、保育所で一緒に楽しむ夏祭りです。PTAの文化部が中心となり計画・実行します。当日はあいにくの雨で、園庭での開催とはいきませんでした。



にこにこフェスティバル

講師の先生を迎え遊戯室で、親子で運動遊びをしました。毎年大学生ボランティアも参加し、子供たちも大喜びでした。

保育所の遊戯室・保育室・廊下・テラスには、いろいろな遊びのコーナー(お土産釣り・輪投げ・スパーボールすくい・水鉄砲など)が準備され、家族で楽しんだり、文化部の方が注文から仕分けまで行ったパンなどの軽食や給食の先生達が腕によりをかけて作ってくれたお楽しみセット(枝豆・ソーセージ・ゼリー)を味わったりしながら、家族同士のふれ合いを深める有意義な時間を過ごすことができました。

【にこにこ運動会千日三回】

幼稚園・保育所合同の運動会を幼稚園の園庭で行いました。体育



にこにこ運動会

部が中心となって、前日には三・四・五歳児の保護者の方が準備をしました。但し、クラス別に担当があり、あつという間にテントが張られ万国旗が飾られました。当日はさわやかな秋晴れで、絶好の運動会日和となり、沢山のお客様も参加して下さいました。今年のテーマは「我が町ふるさと 和気町」です。和気町のマスコット「わけまる」「フジコ」「タンタン」をモチーフにした全員参加のゲームや和気町の名所(自然保護センター・りんご園・鶴飼谷交通公園など)にちなんだクラス別親子競技を行い、家族ぐるみの運動会となりました。閉会式ではお家の方に金メダルを首に掛けてもらって、とても誇らしげな子供たちでした。

【家庭教育学級①(お抹茶教室)】

家庭教育学級は、本年度は五回計画されています。第一回目は、九月十日に、お茶の先生を講師に迎え、五歳児の保護者を対象に、親子で日本の文化(感謝の心・おもてなし)について学び、茶道を経験しました。「日頃の忙しさを忘れ心豊かな時間が過ごせました。」「気持ちのゆとりが子育てにも生かされると思いました。」と、保護者の方々から好評でした。

【家庭教育学級②(親育ち応援学習プログラム)】

第二回目は、十一月四日に、「岡山教育の日」にちなんで、三・四・五歳児の保護者を対象に幼稚園で、保育参観の後、行いました。「親育ち応援学習プログラム」は、日頃の子育てでの気付きや不安を語り合いながら解消法などが学べるプログラムです。ファシリテーターの方を招き、「子育てのイライラとうまく付き合う親になろう」というプログラムで、少人数のグループに分かれ、ワークシート形式で進められました。少人数なので子育てについて、日頃思っていることを話やすく、自分だけでなくみんなもイライラしたり悩んだりすることがあるのだと共通理解し、解消法を自分たちで出し合いました。終了後のアンケートで



家庭教育学級(お抹茶教室)

は、「他のお母さん達も同じ思いを持っていたということが分かって安心しました。」「少人数だったので、自分の悩みを素直に話すことが出来良かったです。」など、沢山の感想が出ていました。

第三回目は、三・四歳児のお母さん達を対象に「リース作り」、第四回目は、「卒業記念フラワーアレンジメント」、第五回目は、「ガーデニング」を予定しています。普段は、忙しかなか保護者同士が集まって話す機会が少ないですが、「家庭教育学級」と位置づけることで、保護者同士が誘い合っで参加し、仲間作りが広がることで、子育てやPTA活動に対する保護者の方の意識も変わります。

【PTA新聞の発行】
総務部が中心となり、年七号発行しています。「にこにこフェスティバル」「にこにこ運動会」「家族参観日」「ガーデニング」などの記事を保護者全員から募り、記載されるので、楽しみにしながら行事に参加し、新聞作りにも積極的に加わって読み応えのあるPTA新聞となっています。

◎終わりに

「園舎は離れていても、心は一つ」と、PTA活動に頑張ってきた保護者の方々。平成二十九年度には、統廃合によって保育所に幼稚園を増設するという形で、幼・保一体型施設として、○歳児(五歳児)が同じ環境の中で生活することが出来るようになります。これまでのPTA活動への保護者の熱い思いを大切により一層、園・保護者が力を合わせて、子供たちの健やかな成長を願って、PTA活動に取り組んでいきたいと思えます。

「親も子どもも楽しい園生活に向けて取り組むPTA活動」

愛媛県松前町立松前幼稚園
園長 川下 三枝子

この度、平成二十七年優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。歴代の保護者の皆様や教職員、そして地域の皆様の温かい

ご支援とご努力の賜物と心から感謝しております。

松前町は松山市に隣接し、波静かな伊予灘に面しています。本園は、町の中心部から少し離れた住宅地の中にありますが、近くには畑や海もあり、四季折々の自然に触れることができます。保護者は子育てに関心が高く協力的です。また、近隣の公民館、小学校との交流も深く、地域の人々も園に対して好意的です。平成二十五年度には、園舎のリニューアルとともに、六十周年を迎えました。

現在、園児数は八十名です。幼児像でもある「げんきな子」「やさしい子」「のびのびあそぶ子」「ひとがすきな子」を合言葉に、親子のつながりを大切にしながら、親も子も楽しい園生活が送れることを願ってPTA活動を行っています。

《PTA活動の紹介》

本園では、役員二十名が会長、副会長、事業部、研修部、誕生会部を構成し活動しています。また、保護者全員が一人一役を担いながら、主体的にPTA活動が展開されています。

【保護者主体の活動】

遊びの幅を広げ、じつくりと遊び込める安全な環境づくりのため



に昨年度『おひさま会』が発足されました。今年度も、たくさん保護者が参加してくれました。そして、これまで死角になっていた園庭の土山を安全な遊び場にしようという整備を始めました。山を掘り返したり、土管を移動したりと大掛かりな作業となりましたが、お父さんやおじいちゃんたちの活躍のおかげで、見晴らしのよいくつろげる空間が生まれました。子どもたちはお気に入りの遊具を持ち込み、様々な遊びを繰り広げています。保護者と教職員が協力し、共に汗をかき合う中で、一体感が生まれる『おひさま会』となりました。

子どもたちにお話の時間を提供してくれる『ウエル ウエルお話し会』に加え、今年度新たにクッキングクラブが発足されました。隣接する公民館の調理室を借りて、料理の得意な保護者が講師となり料理を楽しむサークルです。初めての試みということもあり、今年度は、学期に一度のペースで開催



することにしました。行事に食べたいおやつ、季節の食材を使ったパンなど、食を介してこれまで関わりの少なかった保護者が交流し合い、子育てを楽しむ仲間としてのつながりが深まることを願っています。

【園行事を支える活動】

子どもたちが安全に活動できるように「ちよつとボランティアしよう」という気持ちで立ち上げた「ちよボラ」。園外保育や遠足などで活躍しています。

夏には、園の近くにある海(通称「西の浜」)に出かけます。そんな時に活躍するのがちよボラのお父さん・お母さんたちです。お父さんたちは、子どもたちが沖の方に行かないように、海の中で仁王立ちをしています。子どもたちは、お父さんたちに向かって海水



をかけて大はしゃぎ。お父さんたちも最初ははされるがままですが、最後は子どもたちに向かって海水をかけ、互いに笑顔がこぼれます。我が子のみならず、どの子にも同じように関わり、みんな子どもを育てようとする意識が高まっていくことを期待しています。

【親子で触れ合い・学び合う活動】

園の前には畑が広がっています。『まさきっこ農園』と名づけ、四季折々の野菜を栽培しています。畑の指導をしてくださる地域の方を子どもたちは「畑のおいちゃん」と呼び親しんでいます。その『畑のおいちゃん』の指導のもと、野菜の種や苗を植え、親で水やりや草抜きをしながら、収穫への期待を膨らませていきます。

【おわりに】

PTA活動に参加する中で、家庭では見られない子どもたちの姿を見たり、様々な行事を通して保護者自身が成長していくことができます。また、みんなで協力しながら目標に向かって取り組む中で、よりよい信頼関係が築かれています。それは、幼稚園卒園後も続いていくものと思われま

す。昨年度の課題をもとに、今年度はサークル活動や学年ごとの奉仕作業など園生活をより楽しく過ごそうと、保護者が主体となって活動する姿が見られています。今後、これまでの伝統を引き継ぎながら、新たな取組みにも挑戦し「親も子も楽しい幼稚園となるPTA活動」につないでいきたいと思

います。

第54回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

熊本大会ご案内

大会主題

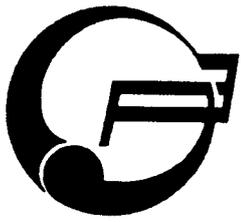
育てよう! たくましいこどもと親の力!!

～九州のおへそ熊本でみんなかたらんね～

期日・場所 平成28年8月5日(金) 熊本ホテルキャッスル
6日(土) 崇城大学市民ホール(熊本市民会館)



熊本県 県章



全国国公立幼稚園・こども園 PTA連絡協議会章

第五十四回全国国公立幼稚園・こども園 PTA全国大会熊本大会

熊本大会運営委員長 永瀬 義剛

第五十四回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 熊本大会運営委員長の永瀬義剛と申します。

会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃からの活動に深く敬意を表します。

今、就学前教育を取り巻く環境、特に幼児教育に関してはこども園への移行や設置、保育料値上げへの動きがあれば、保育料無償化へ向けての動きなど目まぐるしい変化の中にあります。熊本においても例外ではなく、閉園へ向けた動きや休園の現実が存在しています。そのような中、多くの保護者が子どもたちの学びの場を守ろうと懸命に頑張って活動を行っています。

さて、平成二十八年八月五日(金)・六日(土)に開催となります熊本大会では主題を「育てよう! たくましい子どもと親の力!!」九州のおへそ熊本でみんなかたらんね」としました。子どもにたくましく育ってほしいと思う気持ちは、私たち一人一人が抱いている思いです。しかし、時に迷い立ち止まり、自分自身に問いかけながら毎日を過ごし、親子で一緒に笑い、一緒に喜

び、そして時にはケンカもして、一緒に泣いて成長しています。

「親はなくても子は育つ」とは言いますが、子どもは親の背中を見ています。だからこそ親がたくましくあってほしいと思います。そのためには親としての力をつけていくことが重要だと考えます

し、私たちが普段から行っているPTA活動に自信と誇りを持ちその力を見せることが、子どものたくましい力をつけていくことに繋がると信じています。

昨年八月、第五十三回愛知大会に熊本より総勢三十一名にて参加致しました。初めて参加するメンバーも多く、名古屋での開催ということでその規模に圧倒されながらも、伝保運営委員長をはじめとする実行委員の皆様の手伝いや参加者に対しての心遣いに感銘を受け、私たちが大会の時に何をしなければいけないのかを学ばせていただくいい機会となりました。

本年度は大会前年ということですが、毎年秋季に開催している研修会をプレ大会として実施しました。そこでは、私の期待を超えた親の力を見せていただくことが出来ました。そして、来るべき第五十四回全国大会を成功に導くべく機運

を高めたところでもあります。

熊本での開催は昭和四十五年、六十二年に次いで三回目の開催となります。当時の大会資料を読み返してみても今と変わらぬ思い思いで臨んでいたこと、また、子どもたちの健やかな成長を思う気持ちには全く一緒のものでした。長きにわたり脈々と続くこの全国大会の意義を考え守りながら、変化成長できる大会にしたいという思いは日々強くなるばかりです。

本大会では、「話・和・輪(はずばい・なごむばい・つながるばい)」というサブテーマも掲げております。暑い火の国熊本で、熊本の会員全員が熱い気持ちで、手厚いおもてなしをしたいと思いません。たくさんのかたを話し、和みのひとときを一緒に分かち合

い、そして大きな輪をつくりましょう!!



平成二十七年 顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明(元全幼P会長)
萬里小路伸一郎(前全幼P会長)
上枝 秀則(元全幼P副会長)
今井 昇(元全幼P副会長)
太田 禎彦(前全幼P副会長)
板東 優子(元全幼P事務局長)
須藤 幸子(元全幼P事務局長)
楠元 祐子(元全幼P事務局長)
中村 初美(元全幼P事務局長)
新司 英子(前全幼P事務局長)
磯部 頼子(元全園公立幼稚園長)
酒井 幸子(元全園公立幼稚園長)
齊藤美代子(元全園公立幼稚園長)
岡上 直子(元全園公立幼稚園長)
池田多津美(元全園公立幼稚園長)
荒木 尚子(前全園公立幼稚園長)
岩城眞佐子(全園公立幼稚園長)
大木 英雄(元全園公立幼稚園長)
深町 芳弘(前全園公立幼稚園長)
楚阪 博(全園公立幼稚園長)

役員

- 会長 猪木 直樹(岡山)
副会長 大関 敏寛(秋田)
中川 博喜(東京)
伝保 裕規(愛知)
岡崎 正彦(滋賀)
野々村卓也(島根)
山崎 篤史(徳島)
清松 督雄(大分)
関 美津子(園長会)
監事 船木 咲子(秋田)
伊藤 友美(愛知)
中尾 史子(熊本)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
書記 横田万寿子
会計 矢敷 憲子